

平成30年度 佐賀県立伊万里農林高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>○知・徳・体の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、農業教育や林業教育を通して勤労観・職業観を育み、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>ア 授業の充実を図る。 イ 身だしなみ(服装・頭髪等)の正常化を図る。 ウ 基本的な生活習慣を確立させる。 エ 部活動・ボランティア活動の活性化をめざす。</p>	<p>◇「夢・実現」のもと自己有用感を高め、「生徒一人ひとりの社会的・職業的自立」に向けた教育を実践する。</p> <p>①学習意欲を喚起し、基礎学力の定着と学力の向上に努める。 ②将来社会人となるために、基本的な生活習慣の確立に努める。 ③学校行事、生徒会活動、農業クラブ活動に全力で取り組む態度を育てる。 ④地域との連携を密にし、学校の情報発信やPR活動に努める。</p>

達成度 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

3 目標・評価

①学習意欲を喚起し、基礎学力の定着と学力の向上に努める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○教職員の資質向上	授業力の向上と授業改善	・生徒のアンケートで、「授業満足」の割合を80%以上にする。	・全教諭・講師による公開授業を実施し、参考となる点や課題、生徒の様子等の情報共有から、全体的な授業力向上につなげる。	B	・生徒の授業や実習における満足度は71.5%であった。教職員の「わかる授業」に向けた教材研究や授業改善に取り組んだと回答したのは88.8%であったが、授業の工夫に対する生徒の評価は65.5%に留まった。	・生徒の「わかる授業」に対する意識と教職員の意識との間にあることから、生徒の学力や学習意欲等の実施に応じた授業改善が望まれる。そのために、授業の工夫・改善に向けた検討会を積極的に行うことで、全体の意識向上に努めたい。
	●学力向上	基礎学力の向上と定着	・「朝学習の時間」に主体的に取り組む生徒の割合を90%以上にする。 ・全生徒の年間での小テスト平均点を70点以上にする。	・デジタル教材「Classi」を朝学習の時間に有効活用し、「朝学習」「朝読書」「小テスト」をわかりやすく年間計画の中に組みこむことで、効果的な朝の学習体系を確立する。 ・分掌・教科・学年団(正副担任)が連携して指導充実とクラス全体の雰囲気づくり努めるとともに、事後指導の充実・徹底を図る。	B	・小テストを金曜日に行い、朝学習の成果を効果的に反映するように設定した結果、67.1%の生徒が前向きに取り組んだと回答した。ただし職員から見た生徒の学習意欲は30.6%であった。 ・クラスにより朝学習への取り組みに差があり、小テストの結果のクラス差が顕著であった。	・朝学習に使用する教材を生徒の実態に合わせて選定し、年間を通じた学習計画を設定することで、更に効果的な学習体系を確立する。 ・クラスによる差を改善するために、学年団としての事後指導を徹底し、全体的な学力と定着率の向上を図る。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	教職員のICT活用能力向上	・アンケートで、「積極的なICT活用の授業実施」に努める教職員の割合を80%以上にする。	・毎学期「ICTを活用した授業の公開授業週間」を設定することで、授業者の利活用意識の推進と参観者の利活用方法の改善・検討を図る。	B	・学期毎にICT活用の公開授業週間を設定することができず、2学期のみの実施となった。しかし、情報指導における成果指標の設定やICT支援員からの情報スキルアップの資料を発行したことで昨年と比較すると、学習用PCを使用する教師も増えた。	・毎学期の公開授業週間を設定し、教職員にも一定の参観を義務付け、合評会等を開くなどの工夫を行うことで、授業の質の改善に努める。ICT支援員と協力して、毎月の情報スキルアップ研修(紙面)を発行し、最新の情報伝達に努める。
	○進路指導	生徒の希望進路の実現	・進路決定率100%(10年連続)を継続する。	・1年次より、進路講演会や進路啓発のためのガイダンスに取り組むとともに、3年生対象の面接や履歴書指導(夏季休業中)を充実させる。 ・面接指導を全職員で実施し、学校を挙げた指導体制・雰囲気づくりに努める。	A	・1年生から3年生までそれぞれの進路啓発のためのガイダンスを実施したが、進学・就職の希望が不明瞭な生徒がいたため一部効果的ではなかった。3年生においては夏季休業中の出校日を見直し状況に応じた全職員での面接や履歴書書きの指導が効果的にできた。	・ガイダンスのやり方や時期を再検討するとともに就職・進学者を明確に分け、進路希望に応じた、より効果的な進路指導を行う。3年生の夏休みの就職指導は効果的にできず、進学者の指導については不十分な面があり、特課の内容や実施時期を見直し、より効果的な進路指導を行う必要がある。就職希望者には、早めに求人票の提示ができるようその集計や情報提示を検討する。
		キャリア教育の充実	・希望進路の早期決定と卒業後の定着率向上につながる指導を充実させる。	・進路指導、各学年、各学科が連携し、分掌ごとの行事やキャリア教育を効果的に融合させ、生徒個々人の進路希望の情報共有を密にすることで、早期の希望進路決定につなげる。	B	・3年学年との連携は十分に取れていたが、学科との連携が不十分であった。また、生徒の適性に合った進路指導ができず1次試験で内定をもらえない生徒がいた。	・1・2年学年との連携をもう少し密にし、学年に応じた進路指導を効果的に行う必要がある。特に2年学年はキャリア教育の一貫としてインターンシップを実施しているが、将来の進路希望と一致していない場合が多く、より学科と学年との連携をとり、進路希望に繋げたインターンシップを実施する。

②将来社会人となるために、基本的な生活習慣の確立に努める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
教育活動		基本的な生活習慣の確立	・延べ遅刻者数の前年度比3割減、全体出席率98.5%以上、特別指導者数の前年度比3割減をめざす。	・遅刻をしないという意識醸成のための改善策を実施する。 ・学年・学科・分掌の連携による生徒情報の共有と、組織的な指導体制の確立を図る。	C	・特定のクラスで生徒の遅刻数が極めて多かったが、遅刻者に対する放課後指導を徹底することで、全体的な遅刻者数を減らすことはできた。 ・特別指導者数は前年度より増加するとう結果となり、職員間の情報共有・連携が十分図れなかった。	・遅刻が多い生徒に対しては、保護者と更に密接に連絡をとりながら連携を図り、遅刻数減少に取り組む。 ・職員間の情報共有と連携を積極的に図り、組織的な対応が迅速に行える指導体制を確立する。	
	○生徒指導	身だしなみの正常化	・生徒の服装や頭髪を含めたマナー意識率80%以上をめざす。	・日々の「チェックカード」による個別指導を全職員の共通理解と共通指導により実践し、保護者と連携した正常化を図る。 ・全校集会を効果的に実施し、生徒の意識向上を図る。 ・日々のHRや学年集会をとおして、マナーアップに向けた指導と雰囲気づくりに努める。	B	・マナー向上に対する保護者の評価は77.1%であり、生徒の81%が意識して学校生活を過ごしていると回答した。 ・チェックカードによる保護者への電話連絡・召喚等の指導は74名と全体の22.6%だったが、年度末には8名と全体の2.4%に減少し、概ね目標は達成した。 ・頭髪等の指導について基準が不明瞭な部分があり、生徒や保護者から十分な理解が得られない場合がある。	・来年度もチェックカードを実施し、生徒の身だしなみへの意識向上に努める。 ・頭髪検査等における基準を明確にし、生徒や保護者の意識の定着に努める。 ・身だしなみについて、表面上の改善だけでなく、内面的な部分での意識改善に取り組む。特に、新高校での両キャンパスでの差が生じないように、両校での統一した指導を積極的に行っていく。	
		校外でのマナーアップ		・地域からの信頼を得るため、登下校時の服装やマナーアップに取り組む。	・毎週火曜日、全職員での校外登校指導を実施し、校外での身だしなみと交通安全指導、マナーアップ指導を行う。	B	・校外で職員が指導を行ったことで極端な服装の乱れ等は減少傾向にある。 ・自転車のマナーについて、駅での駐輪場の利用状況や交通量が多い時間帯の自転車の利用の仕方等で指導が必要な状態であった。	・校外指導について、巡視の場所や時間帯を工夫し、生徒の校外での様子の状況把握に努める。 ・交通講話等を年度当初に行い、年度の半ばあたりで、自転車の利用等について警察等と調整をしながら自転車教室を計画する。
	●心の教育	他人を思いやる気持ちや豊かな心の育成	・他人への思いやりのある言動がとれる生徒90%以上をめざす。	・地域連携の取組やボランティア活動における地域の方々とのふれあいに加え、人権・同和教育に関する講演会や日々のHR等をとおして、人間性豊かな生徒の育成を図る。	B	・生徒たちが、他人に対する思いやりを意識して行動しているかのアンケート結果では、生徒77.3%、保護者75.4%、職員52.8%という結果になった。	・「農業の守り」教育における「心の教育」を積極的にに行い、豊かな心と思いやりの心を育てる。生産物販売等とおして、地域の方とのコミュニケーションを積極的に行っており、相手の立場に立ったふれあいができるような心の教育に日頃から取り組む。	
	●いじめ問題への対応	いじめの根絶に向けた、生徒の意識向上	・「いじめは絶対に許さない」という意識を持つ生徒100%をめざす。	・いじめ防止の標語を校内に掲示し、いじめを許さない雰囲気づくりに努める。 ・日々のHR等で、初期のいじめ事象発見に努めるとともに、HRや学年集会等で、いじめ防止と人権尊重についての指導を徹底する。	C	・いじめ防止の標語を校内各所の掲示板に掲示し、日頃からいじめ防止の意識を持たせる指導を行ってきた。 ・職員による校内巡回等を組織的に行い、生徒たちの行動の死角となる面を減らすことで、いじめ防止の取り組みを行った。	・携帯やスマホ等でのSNSによるいじめが増加しており、安易な書き込みが相手を傷つけるという点を、HRや集会、講演等とおして教育していく。 ・生徒の細かな変化も見逃さないよう、職員の情報共有と連携を行い、組織的な対応に取り組む。	

	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食を摂って登校する生徒の割合を90%以上にする。	・保健だよりを毎月発行するとともに、朝食に関するアンケートを実施し、朝食を摂ることの大切さを理解させる。 ・面談等とおして保護者に理解を求める。	B	・保健だよりやPTA総会資料等で朝食についての重要性を紹介し、望ましい食習慣の形成ができるように促した。朝食に関するアンケートの結果、77%の喫食率で、昨年度より10%の増加となった。	・朝食の喫食率は昨年度より10%増の77%となったが、目標の90%以上には届かなかった。就寝時間と起床時間が遅いため、朝食を摂れない生徒が多い、生活リズムを整え、自己管理できるような働きかけが今後の課題であると考え、保護者に頼るばかりではなく、自分自身で朝食を準備することなどの行動力を身に付けさせるよう、教科指導や各科の協力を得ながら実践していく必要がある。
--	----------	---------------------	----------------------------	---	---	--	--

③学校行事、生徒会活動、農業クラブ活動に全力で取り組む態度を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒会活動	部活動の活性化	・部活動加入率80%以上をめざす。 ・県総体や新人戦等で、昨年以上の大会入賞をめざす。	・日々の活動とおして、部活動の意義や効果等を理解させる。また、未加入者に対し、担任・学科の連携により加入促進の指導に努める。 ・日々の練習により体力・技術の向上に努めるとともに、練習試合等とおして競技力向上を図る。	B	・カヌー部が県総体で総合優勝し、国体やインターハイでも優秀な成績を取った。また、太鼓部も全国総文祭や多くのイベントで演奏するなど活躍した。 ・部活動の加入率は、62%と目標には届かなかった。	・伊万里実業高校の開校に伴い、多くの部活動が合同での練習及びチーム編成となるため、三校が連携した活動の活性化と問題点の改善に取り組む。 ・1年生の全支部活動により、2・3年生の部活動への意識向上を目指す。
	○農業クラブ活動	農業クラブ活動とおした、専門教科に関連する知識・技能の向上	・農業クラブ県連大会で、チーム・個人を含め、5部門以上での最優秀・優秀等の入賞をめざす。 ・県連事務局として、県連各種大会の成功をめざす。	・校内での選考方法を改善することで、早期の指導体制を確立させ、徹底した反復練習に取り組むことで、レベルアップを図る。 ・迎え入れる体制を整えるため、「目配り・気配り・心配り」ができる生徒のマナーアップ指導を徹底する。	B	・農業クラブ県連大会の成績が意見発表・プロジェクトも最優秀1つだった。意見発表の取り組みを早かったため、成果が今一歩だった。 ・県連事務局として役員生徒が中心となり、生徒主体の大会運営を行うことができた。	・校内での選考方法をより一層よいものに改善し、昨年度の目標だった5部門以上での最優秀・優秀の入賞を目指す。 ・全国大会へ一人でも多くコマを進め、優秀賞を目指す。 ・大会の運営側としても参加者としても服装やマナー等、1日頃の学校生活から改善していく必要がある。
	○専門教育	魅力ある専門教育の実施	・所属学科の専門学習への興味・関心度を80%以上にする。	・実験・実習内容の工夫改善に取り組むとともに、内容に応じて地域との連携強化を図る。	A	・生徒の81.6%が、興味関心をもって専門学習に取り組んでいると回答した。	・魅力ある実験・実習の展開に向け、引き続き内容の工夫・改善に取り組むとともに、県内外の学校での、特色をもった実践事例の情報収集に努める。また、地域との連携強化に取り組む。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	学校行事の精選と効率的運営	・講演会等の行事の精選を行う。 ・体育祭・文化祭等の企画内容・役割分担の見直しを行う。	・生徒に必要な行事の観点から精選を行い、企画・準備等の負担を減らしていく。 ・準備期間の長い行事の内容と役割分担で負担の分散を行うよう見直しを図る。	A	・会議や研修等の設定については、水曜日をベースに行うことで、他の曜日や定期考査の午後の時間帯に余裕を持たせることができた。 ・体育祭や文化祭の準備期間も、昨年度より準備期間を長くすることで、計画的に準備することができた。	・伊万里実業高校の開校に伴い、キャンパス単独での行事や三校合同での行事開催など、多くの行事が交錯するため、行事運営においては、両キャンパス間の連携を密にすることで効率化を図りたい。
		部活動指導の効率的運営	・適切な部活動休業日の設定を行う。 ・顧問間の指導日の連携	・各部活動、週当たり2日以上の休業日を設定し、効果的な指導方法の展開を図る。 ・複数顧問の交代での指導体制を推進する。	A	・原則水曜日を休業日に設定し、平日の休業日と安全の確保につなげることができた。休日の指導についても、指導者の休業を前年比80%にすることができた。	・伊万里実業高校の開校に伴い、両キャンパス間を移動しての練習も増えるため、両キャンパスの顧問が連携を密にとり、効率的な活動運営に取り組む。 適宜、部活動検討委員会を開催しながら、学校全体としての問題改善検討を行っていく。

④地域との連携を密にし、学校の情報発信やPR活動に努める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動		保護者・地域への教育内容の理解	・農業文化祭や学校開放講座を充実させ、来校者・参加者数の増加をめざす。	・各科の展示内容・体験実習内容の工夫を図るとともに、生徒が前面にでる校外向け活動の企画と広報活動に努める。	A	・農業文化祭には、2,000名近くの来校者があり、本校の学習成果を紹介できた。 ・6回開催した学校開放講座や食品化学科のカフェにも、多くの地域の方に足を運んでいただき、本校教育活動への理解につなげることができた。	・昨年度より農業文化祭は、展示会場を体育館に変更し、参観者が巡回しやすいレイアウトとした。また、これまで以上に展示の内容や新しいイベント等の企画と充実を努める。 ・学校開放講座については、これまでの内容を更に充実させた特徴ある講座に努める。 ・地域に根付きつつある食品化学科のカフェについては、今後とも定期開催に努める。
学校運営	○開かれた学校づくり	中学校へのPRの推進	・体験入学参加者数250人(引率含む)以上をめざす。 ・新高校の教育内容等の周知と広報活動の充実	・新高校の学習内容がよくわかる、中学生にとって魅力的な体験入学になるよう検討する。 ・新高校のことがよくわかるパンフレットの作成とPR方法の展開と充実を図る。	B	・体験入学参加者は、中学生132名、引率・保護者27名と、昨年度の227名(204名、23名)を下回った。	・体験入学の体験実習内容については、中学生が興味関心を持つような新たな内容に取り組み、より魅力的な体験入学となるよう工夫・改善に努める。
		学校情報の発信	・学校だより(至誠)の毎月発行と内容の充実を図る。 ・学校ホームページを月2回以上更新する。 ・積極的なプレスリリース	・特色ある教育活動の集約と編集に向け、各学科からの情報提供の推進と内容の充実を努める。 ・HPは常に最新の情報掲載に努めるとともに、携帯版サイト(オクレンジャー)による情報発信を推進する。	B	・学校だより(至誠)の発行は、年間5回の止まった。 ・学校ホームページは、毎月更新し、学校行事等の情報発信を積極的に行った。 ・プレスリリースを積極的に行い、新聞等での情報発信も多かった。	・伊万里実業高校の開校に伴い、新高校の情報発信を積極的に行うことで、地域に根ざした学校づくりに取り組む。学校ホームページの毎月の更新と学校だよりの中学校への配布などを積極的に行っていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○危機管理・安全対策	事故防止への意識向上	・授業・部活動や登下校時の事故(要報告分)の、前年比半減をめざす。	・授業・部活動での事故防止及び発生時の緊急体制等に向け、研修会等を実施し、生徒・指導者の安全確保に対する意識を高める。 ・校内各所の安全点検を強化し、事務部とも連携した未然防止対策を積極的に行う。	B	・部活動休業日と会議等を水曜日に設定し、生徒だけの練習にならないよう配慮することで部活動の安全確保につながった。 ・校内の外灯の増設、修理を大幅に行い、夜間の安全確保対策を行った。	・生活事故については、部活動を中心に体育や農業実習等を含め、危険予知と生徒の安全確保に向けた指導を徹底する。 ・交通事故防止に向けては、交通講話等の実施はもとより、校外での交通指導を行うことで、安全意識向上に向けた指導の強化を図る。

●は共通評価項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目

4 本年度のまとめ・次年度の取組
 本年度は、農業クラブの県連事務局を本校が担当し、発表大会を行うにあたり全校生徒で迎え入れるため、マナーアップの指導を積極的に行ってきた。その結果、昨年度以上に生徒たちのマナー意識の向上につながった。ただし、外部からの評価については、まだ十分ではなく、更なる意識改革と改善を必要とする。進路決定率は100%には届かなかったが、目標とする進路保障は確実に行うことができた。部活動や農業クラブ活動でも、結果を残すことができ、今後の活躍が期待される。今年度は、伊万里実業高校開校に向け伊万里商業高校と準備を進めてきた。次年度、いよいよ新高校が開校するが、課題もまだ多く残されている。新高校のことが、地域や地元中学校に浸透できるよう、次年度は特に「開かれた学校づくり」に積極的に取り組んでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目